

会議録

会 議 の 名 称	令和7年度第2回清須市立中学校部活動検討委員会
開 催 日 時	令和7年10月7日(火) 午後3時
開 催 場 所	春日公民館 大会議室
議 題	1 開 会 2 あいさつ 3 議題 (1) 次年度の部活動地域連携・展開等の試行について (2) その他 4 閉 会
会 議 資 料	次第 【資料1】部活動の在り方の検討にあたって
公 開 ・ 非 公 開 の 別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	西尾委員、安井委員、三嶋委員、俣溝委員、奈良間委員、 吉住委員、早川委員、星野委員、稲垣委員、堀部委員、 藤島委員、木村委員、大鹿委員、近藤委員、佐橋委員、 梶浦委員、黒田委員
欠 席 委 員	田口委員、山本委員
出 席 者 (市)	—
事 務 局	(教育委員会教育部) 石黒教育部長、浅井教育部参事、大沼教育部次長兼生涯学習 課長、吉田教育部次長兼学校給食センター管理事務所長、瀬 尾学校教育課長、高山スポーツ課長、小崎学校教育課課長補 佐、炭竈学校教育課係長、松井学校教育課主事
<p>1 開 会 (事務局)</p> <p>定刻となりましたので、ただいまより、「令和7年度第2回清須市立中学校部活動検討委員会」を開始させていただきます。</p> <p>私は、学校教育課長の瀬尾でございます。議題に入りますまで、議事の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、田口校長、山本校長におかれましては、公務のため欠席の旨の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。</p>	

2 あいさつ

(事務局)

はじめに、天竺教育長より、ご挨拶を申し上げます。

〔天竺教育長挨拶〕

改めまして、皆様こんにちは。教育委員会教育長の天竺でございます。本日は大変ご多用のなかお越しいただきまして、誠にありがとうございます。重ねて、日頃より、市内各小中学校に関わる諸活動に対するご支援、ご協力を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日は、6月に続きまして、第2回目の部活動検討委員会として今日はお越しいただきました。前回冒頭での挨拶でも申し上げましたが、一つは、教師の長時間労働の改善、いわゆる働き方改革という課題に向けて、市としてもしっかりと向き合って支援をしていかなければならないということ。そしてもう一つは、今回のテーマは単に部活動を、今後中学校が担い続けるのか、離していくのか。そういう中学校側だけの問題ではなくて、今後想定される、例えば児童生徒の減とか、指導者数の減、そういったことによって事実上運営困難になるような事態、あるいは存続種目が減っていくのではないかと、そういった学校間格差が起こってはいけない。そういうことに対応するべく、市としても検討していくということでスタートしますとお話をさせていただきました。

その後3ヶ月くらい経ったのですが、どんなことが国や市の動向としてあったか、ということをお簡単に申し上げますと、国としては6月に改正スポーツ基本法が成立しました。色々な分野があるのですが、その中でも特筆すべき点は、公立中学校の部活動の地域展開の推進に向けての国や自治体の責務というものに明記されました。進めなければいけないという、努力義務ですけれども、それが明記されたということです。それから、つい9月に入ってからのことですが、スポーツ庁と文化庁が合同で出したものですが、部活動の改革実行期間に来年度から入って行って、31年度までの期間の指針とすべきガイドラインのたたき台というものが、この9月のはじめに出ました。おそらく検討された後、今年の冬に新しいガイドラインが出るのではないかとということで、そのガイドラインがどのような形で出るのか、注視しているところであります。

では、市としてはどうかと言いますと、先日、市の総合教育会議が開催されました。ここで、部活動の地域展開ということが議題としてあげられました。市長の方からも、中学校の部活動展開ということが全国的な取組ではあるけれども、本市としてはどういう状況か確認をしたいと。それから、今、市内中学生で合唱隊というものが生まれておまして、ひょっとしたらお耳に入っているかもしれませんが、今年清須市が市制施行20周年を迎える年になるのですが、記念式典が11月に開催されます。実はそれを聞いていた中学生の子たちが昨年12月になんとか自分たちも力になりたいと、たまたまボランティア合唱隊のある学校の子たちが発案して、市内の合同の中学生有志による合唱隊で合唱を披露したいという声が上がって、市内の他の学校へも広がって賛同を得て、募集をしたらなんと200人も集まって、合唱隊が練習をしているところです。市長にお願いをして、快く是非やってほしいと言っていたら、今、実は練習活動をして残り一月を切っているのですが、そういった合唱隊が今ありまして、今後それがどういう展開になるのだろうかということも、その総合教育会議の中で市長から話がありました。

そのような中で、色々な意見交換をして、今日のテーマに近づくのですが、本日は今国の動向ですとか、市のお話も少しさせていただきましたけれども、そんなことも踏まえて、まずは本市としての次年度の試行案についてご協議いただく予定でございます。

それぞれ、いろいろな角度から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。今日はよろしくお願ひいたします。

(事務局)

この後の議事進行につきましては、委員会設置要綱第5条第3項の規定により、委員長が議長となりますので、以降の進行について、よろしくお願ひいたします。

3 議題

(1) 次年度の部活動地域連携・展開等の試行について

(委員長)

春日中学校長の三嶋と申します。これより議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

それでは、議題1「次年度の部活動地域連携・展開等の試行について」を議題といたします。

事務局より、説明をお願いします。

(事務局)

資料1より、次年度の試行内容案について説明。

(委員長)

ただいま事務局より、「次年度における部活動の地域連携・地域展開の試行」について、素案の説明がありました。

それでは、今から令和8年度の試行の内容につきまして、委員の皆様から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。ご意見のある委員の方は、挙手をお願いします。

少し、資料を読んでいただいたり、周りの方と話していただいても構いません。少しお時間を取りたいと思います。

はい、黒田委員どうぞ。

(黒田委員)

きよすスポーツクラブの黒田です。基本これは2本だてということでしょうか。来年度こういう形でやっていきたいという事ですよね。

(事務局)

はい、その通りです。

(黒田委員)

来年度は中学校の部活動は、平日はまだあるということですね。そうすると土日だけ外部指導員が来るということでしょうか。平日もかむかもしれませんけれども。現状の部活もあるわけですよね。平日の部活は教員がするという事ですね。

(事務局)

はい、その通りです。

(黒田委員)

そうすると、土日だけ他の方がみえるということで、その部活のメインの責任者はどうなるのかなということがありますし、それから、本来学校教育としての部活動の考え方というのは、教員としての立場に対する取組は変わらないのか、その辺はどうなるのでしょうか。

(委員長)

事務局、お願いします。

(事務局)

はい。まず来年度の試行につきましては、土日の部活動から学校の先生を離すということではなくて、学校の先生のお手伝いをしていただける方、補助をしていただける方を当てたいというふうに考えております。

例えば、学校の先生が今週の週末休みみたいなのといった場合に、外部指導員の方が主になることがあるかと思えますけれども、あくまでも学校の部活動がメインとなりますので、週末の土日いずれかに補助の方がボランティアではなくて報酬等を払ってやっていただくということを試行していきたいと考えております。以上です。

(黒田委員)

そうすると主は学校ということですね。すべての部活動において、学校側は今までと変わらないということですね。

(事務局)

その通りです。

(委員長)

その他、よろしいでしょうか。はい、お願いします。

(安井委員)

清洲中学校の安井です。着座にて失礼します。

今の黒田委員の話と似た部分もあるかもしれませんが、学校側の意見としてですが、職員に色々話を聞いたり、自分の学校だけにとどまらず知り合いの先生などに話を聞いたのですけれども、ゆくゆくどうなっていくかというところもあるのですが、平日は学校の先生がみて、土日は地域が見るというのは、概ね先生たちは反対だと思います。理由は、学校の活動の中で、やはり自分の学校の生徒たちを自分がしっかり見て、愛情を注ぎ込みながら一つの目標に向かって汗をかくというのが部活の元々の姿。そこで平日は先生が見て土日は地域の方お願いしますねということになったときに、そのコンセプトが先生たちの中に崩れます。もっと言うと、大会とか練習試合とかを地域の人が連れて行って、平日の練習だけ先生見てくださいというのは、先生たちとしては受け入れがたい。やるならしっかりやらせてくれ、というのが大方の先生方の意見です。自分が部活をやったときは休みもなくという時代でしたけれども、今はガイドラインというものができましたので、ガイドラインができたときにもやるならしっかりやりたいという声が現場で上がっていましたし、今、地域展開という話が出てきましたので、職員室で色々な先生方と話してみましたが、だったらやらない、やりたいけどやらないと。自分もある意味そういうところがありました。先生になっている方の一定数には、部活がやりたいというか、自分が携わってそれを通して子どもたちの教育活動に携わりたいという先生たちがまだまだ一定数いるので、そうしたときに、切り分けをするというのはすぐわかないかなという風には自分としては思っています。地域展開は、移行するなら移行する、移行しないなら移行しない、といったのが良いのではないかと思う。

それから、自分が一番思っているのは、人材確保のところ、平日先生がやることといことは人材確保ができてから良いのですが、では、それを土日に移行していこうとしたときに人材はどうするんだという問題になってくると思います。その人材を探すのは、学校がやるのか、それとも保護者の方でやるのか、はたまた清須市のどちらかの課の中に部活動地域連携コーディネータというのを設置して、先ほどの合唱の話はとても良いなと思ったんですが、愛知県人材バンクというそういう一つの人材を集める機関みたいなものを市の方で設定して、そこへ集まってきた人と面接とかをする中で、各学校に配置していくという形であれば、平日休日共に学校の先生が携わる中でサポート的な位置づけで地域の方にご協力いただくのがきれいな形かな、というふうに思っています。

人材を発掘するというのが一つの山になるということと、人材が確保できたときに、その方に対する研修は誰がするのか。今、悲しいかな色々なニュースが社会を賑わせておりますが、やっぱり、教育現場に向けられる、地域の方、社会の目というのは、現状厳しいものがあると思います。そういったときに、生徒と直接向き合うという環境があった時に、そこには研修というものがしっかりあって、その人材の方に対する信頼感が生まれるから、じゃあお願いしますっていう形ができると思うんですけど。そういう研修のあり方っていうのはどうなるのか。そういったところを含めて、自分が一番言いたかったのは先生たちもこんな感じですよということが一番言いたかったんですけども、そういったところをご検討いただければありがたいかなと思います。

(委員長)

まとめて事務局、お願いいたします。

(事務局)

ご意見ありがとうございました。

人材確保というところで言うと、他自治体においても非常に確保が難しいというようなことがアンケートの方でわかっています。多分ここが一番難しいことなのかなと思います。もし人材が確保できた場合に、何らかの研修をやって、必ず研修を受けないと、指導できないような形をとりたいなというふうには考えております。

今、安井校長がおっしゃられたことを、1つ1つ検討していかなければならないなということは考えております。ありがとうございました。

(委員長)

その他、ご意見等ございましたらお願いします。

(黒田委員)

外部指導員の方の謝礼ということが例に挙げられていますけれども、教員が勤務時間外に教えるということで、教員への謝礼とかは出るのでしょうか。そこまでは考えていないのでしょうか。それとも、勤務時間外には部活動は無くなるのでしょうか。あ、来年度はまだ部活動はやるんですかね。

(事務局)

はい。

(黒田委員)

先ほど例で出されていましたが合唱クラブは今部活動であるんですよ。

(事務局)

いいえ、部活動としてはありません。

(黒田委員)

ないんですね。そういう場合は良いと思うんですけども、校内にあるものを地域で集めるというのは、選抜というかクラブチームみたいなものがあるものもあると思うんですけども、そういう発想と同じで別物になるという感じなんですか。

(事務局)

今考えてるのは、学校にはない部活動の種目で生徒たちがこんなクラブがあったらいいなというようなのをやっいていこうかなと思っております。

(黒田委員)

それでは、今までと傾向としては同じでは。水泳部がないからスイミングクラブ習いに行こうみたいなと同じのような気がするんですけど。

(事務局)

発想としては異なる部分があると思っています。そういった子は技術を学びたいということで中学生くらいであればクラブチームに入ると思うのですが、そうではなくて、純粋に楽しみたいなという子たちにも門戸を開きたいというところがありますので、そういうところも地域クラブとして位置づけていきたいと思っています。

(黒田委員)

今ある部活とお稽古ごととは、全然意味合いが違っていると思うんですけども、やはり部活の移行であれば教育的配慮というものもいるのではないのでしょうか。

(事務局)

資料の大きい3番の一番最初に、生徒のニーズや時代の変化に合わせて、生徒が多様な活動に主体的に参加できる機会を確保すること。これが一番の事業展開としては目的でございますので、そこに何か教育的な配慮というものがあれば、市がやっていくことですので、他のクラブチームとは違ったやり方をやっいていかなければならないというふうには考えております。

(黒田委員)

だから子どもたちのニーズに合わせて、例えばですね、やりたいなったら、市が水泳クラブを作るってことですかね。

(事務局)

今、自分たちが思い浮かべているのは、例えば、弓道部とかアーチェリー部、とかそういうものとか、他に文化的な合唱部とかそういうものを想定しておりますので、生徒の方が、本当に水泳がやりたいって言って、他でやるところがないっていうのであれば、それは市で作っていくことも必要かなと思いますけれど、スイミングに関しては他でやるところがありますので。

(委員長)

はい、安井委員。

(安井委員)

今、黒田さんがすごく明確なことをおっしゃられたので、ちょっと自分が今携わっていることでもあるので、言える範囲でちょっとお願いしたいと思います。

自分も清洲中学校として11年目になるので、すごく大好きなまち、清須市なんですけれども、20周年を迎えるっていうことで、今回合唱クラブ「清須コーラスグループ」っていうのはカッコいいやつで、4中学校合同で今練習やってます。次は10月14日にあるんですけども、実は西枇杷島中学校に合唱ボランティアっていうのがあって、そこが起点になって、今4中学校で何と200名の生徒たちが、集まってくれました。その200名の生徒たちは合同練習を夏休みを含めてやってきてるんですが、横の繋がりで今まではなかった、例えば、春日中と清洲中の交流だったり、西枇杷島中と新川中の交流であったり、様々な横の繋がりが子どもたちのネットワークができてきて、今歌の練習を聞いていると、とてもすてきなものができ上がってたかなというふうに思っています。

だから、11月3日、本番があるんですけども、ここでコーラスグループ、合唱隊の子たちの歌がひとつ、この次の今この資料にある、2枚目の右下の方にある四角の中に合唱クラブがあるんですが、これっていうのが、今、瀬尾課長がおっしゃられた主体的っていうか子どもたちが楽しみにしているとか、そういったところから派生する新しい形のクラブの立ち上げに繋がるものであろうっていう推察は容易にできるかなっていうのは、今、子どもたちと一緒に自分やってるもんですから思ってます。

ただ、その200名のうちの一体何人の子たちが、11月3日はセレモニーが終わった後やりますって言うてくれるかどうか、そこはちょっとわからないんですが、少なくとも今の活動の様子見ていると、次の清須市の20年を担う子どもたちの一歩目になるようなクラブができるのかなと。

それができるときに、市の協力であったり、何課が携わっていただけるかわからないですけども、市と連携したこの合唱クラブっていうのができたときには、地域展開の大きな1歩になるクラブが立ち上がる、新しい地域クラブが立ち上がるのかなというふうに、自分は認識しています。だから、ぜひこれも応援していきたいなというふうに自分も思っているんですけども。

それからもう1つ黒田さんがおっしゃられたところ、確かにそうだなと思って聞いておったんですけども、今の部活の状態をそのまま地域に持っていきのかどうか問題っていうのはすごく難しいことがありまして、自分もこの東尾張管内のいろんな市町の今先進的にやっている地域の現状っていうのを調べたんですけども、やっぱりその東尾張地区、全国見ても壁になるのは2つありまして、人材の確保、継続性があるかどうか。

それからあとは財政的な部分、どこまで手当が出せるかどうか。そういったところで先進的にやって旗を振っていったところっていうのは、大分今疲弊しているっていうのは、様々な資料から読み取ることができています。

そういったところで、清洲中学校ちょっとPTAの方にご協力いただきながら、保護者にちょっとアンケートとったんですけども、そうしたところを30%ぐらいの子たちが、もうすでに外の何かしらクラブチームであったり、地域の活動であったり、それは清須市内も含めて、多くの世帯の方がそちらの方に移行してるっていうのはおかしい言い方ですけども、参加をされている。私も校長として、いろんな情報が入ってくるんですが、そこでの活躍を清洲中だけではないと思うんですが、目覚ましい活躍をしているということの情報も入ってますし、こういう表彰を受けたっていうことも情報が入ってますし、いろんなところで生徒たちっていうのは、活躍の場を、それこそ先ほど課長がおっしゃられた主体的に、自分たちで考えて、積極的にそこに携わっていくことによって、自分たちを生かす場っていうのを見つけているんだなっていうふうに自分はとらえています。

だから一気に動くっていうよりは、スモールステップで徐々に徐々に行けたらいいのかなというところを入口として、今話題になっている令和8年度を、どうするかっていうと

ころに視点を当てたスモールステップ1個は何になるかっていうのが、ここで話し合われるのかなっていうふうに思いました。

ちなみにその1個にあるのが合唱隊っていうのはあると思うので、この合唱隊が1つ成功すれば、これやってみようという二之手が出てくる気がするので、何とかならないかなっていうのは、今自分も切に願ってるところです。今ちょっとずれました。すみません。

(委員長)

ありがとうございました。他にご意見等ありますでしょうか。はい、どうぞ。

(吉住委員)

清洲中学校保護者代表の吉住です。

前回の会議に出させて置いていただいた意見で、資料の事前の送付をしていただきまして、まずはありがとうございました。

私は、清須市で11年、初めてこの会議にも参加させていただいてるんですけども、この会議のために改めて自分のまちはどういう価値観、考え方を持ってる市なのかっていうのを、調べました。

その中で、市のホームページの方に、はぐくみ都市を目指しているという資料と、あと第三期清須市子ども・子育て支援事業計画という資料がありましたので、それもある程度は見させていただいた上で、この場で少しかもしれないんですが、述べさせていただきます。

まず、この清須市っていうのは、愛知県の出生率はナンバーワン。ただし、今後の推移を見ますと、0歳から5歳、6歳から11歳については、児童の人口は2024年7,663名から6,864名と減る推移を、今現状はしているようです。先ほど、改めてこの部活動検討委員会の目的は、地域への移行の目的を2つ述べられていました。1つが、教職員の皆さんの働き方改革の1つ。あとはそれぞれの学校の格差、それを埋めていこうということで、令和8年、令和9年ということで、徐々に地域の移行をしていきたいというお話をいただいたんですけども、改めてこの目的の再検討をする必要があるんじゃないかというふうに感じました。

この2つの目的プラスやはり清須市としては、本気でこのはぐくみ都市を目指すのであれば、先ほどの2つの目的にプラスをして、子ども・子育て支援事業の計画の一環として進めたいという、子育て、子どものための一環としてという言葉も目的として入れないことには、何のためにその地域を、その辺のここに集まっていたらいい方の目的が、やはり共通認識がないことには、今後の計画も意見や考え方もバラバラになるんじゃないか、というふうに感じましたので、まず私からの保護者代表としてのお願いは目的の再度1つプラスアルファをお願いしたいというのがひとつ。

あと1点だけ、令和8年度から地域への移行スタートしていこうという試みがあるというお話を前回からお聞きしておりますが、働き方改革の一環であれば、やはり問題点、課題となってくるのが、平日の先生の子どもたちへの指導、あとは子どもたちの状況を踏まえた内容を理解して、いかにして土日の指導員の方たちへ、情報の共有、引き継ぎをすることの難しさ。おそらく、同じ先生が平日、部活動に携わって指導していくと、それぞれの子どもたちの状況であったりとか、調子がいい・悪い、この子は土日に試合があるから、この子はこういうふうにしていこうという様々な情報を、どのように先生たちは土日の指導員引き継ぎをしたらいいのかというところの問題が出てくるのではないかと。

そうすると、先ほどの目的でもある、働き方改革。逆に先生の負担が増え、あとは、もししっかりと引き継ぎがなされなかった場合は、指導の違いによるもの、あとは情報の共有不足によって子どもたちも不安が高まってくるのではないかというのを、先ほどの安井校長先生からのご意見を聞く中で、すごく問題点として上がってくる可能性があると思います。本来の目的を達成することができなくなるんじゃないかという危険を覚えたので、目的の再度追加と、地域移行の中での問題点、引き継ぎの仕方等をどのようにやっていくのかっていう問題点も、この場で共有すべきではないかと思って意見を述べさせていただきました。

(事務局)

委員おっしゃられたこと、もっともだと思います。目的の再検討というところ、これはちょっと持ち帰らせていただいて、必要であればそこはもう1つプラスっていうところを考えたいと思います。

2つ目の、先生と地域指導員の方の連携。これ本当に他の実際の例を見ると、なかなか上手くいってないところが多くて、逆に、確かに働き方改革に逆行するようなことが起きているというのがあります。

ですので、まず8年度は、今までボランティアとしてやっていただいている方に、土日の指導員をお願いして、そこでどんな課題が出てくるのかなっていうところを洗い出して、次につなげていきたいなというふうには考えております。以上です。

(委員長)

他にございますか。はい、どうぞ。

(稲垣委員)

西枇杷島小学校PTA会長の稲垣です。ちょっとずれちゃうかもしれないんですけども、小学校の役員会の方で、保護者の意見をいただきましたので、ちょっとお伝えさせていただきたいと思います。

小学校の方はですね、活動が廃止ということが決定されて、親子で部活を楽しみにしておられた方もおまして、その方たちは廃止ということで大変ショックを受けておられるというご意見もありました。

部活動で経験したかった音楽活動とか、運動系の部活動というものも、自分で探さないといけなくなったということで、ちょっとそれが負担になってしまうので小学生にも参加できる機会が欲しいなというご意見もありました。

あとは大変申し上げにくいのですが、清須市は社会の変化への対応が遅いと思うというご意見をいただきました。どうも近隣でいうと、北名古屋市さんとか、その他の市などは、もう今年から始まっているとか、ニュースでも最近、地域移行で名古屋市では、昨日テレビ見たんですけども、部活動に外部委託事業として入ってきてるっていうニュースもチラホラとありますので、そういったものを目にされて、まだ清須市がどういう動きかが見えないということと、小学校の間では部活が廃止になったことによって、中学校での部活もなくなってしまうという噂が回っておりまして、部活がなくなるっていう認識を持たれてる方もいらっしゃるのので、今後一体部活動を続けていけるのかどうかっていうことを、今の現状もなるべく配信していただくというか、広めていただけたらなということをおっしゃっております。

中には地域で、西枇小とかだとバスケットを地域のスポーツクラブなのか何かのかたがやってらっしゃるみたいで、1回100円とか、夏は200円とかすごい破格のレッスンでやっていただいているみたいなんですけれども、こういった指導者の方だと、子どもたちが多分小さい頃から慣れてるので、そういった方にボランティアだとか先生の補助とかで入っていただくのもいいのではないのかなっていうご意見も有りました。

皆様、保護者の方は、先生方のご負担については大変理解されておりますし、先生方の家庭もある中で時間を割いてやっていただいているというのは十分認識はされておりますので、外部委託については小学生の保護者の間ではやむを得ないというか、それに対しての抵抗という感じはあんまり受けられなかったです。

私個人としてなんですけれども、清須市のバレーボールだったらウルフドックスのチームとか、あとバスケットはファイティングイーグルスとか、そういった方たちを活用するとか、そういったものとか、ちょっと北名古屋市の議事録を見させていただいたんですけども、そういったところとか地域のスポーツクラブから何かお手伝いできませんかとかっていう意見がきてるなんていうのも見たんですけども、清須市としては、こういったご意見は聞けないんですかね。

(委員長)

事務局、お願いします。

(事務局)

スポーツ課、高山と申します。スポーツ系の種目につきまして今ご意見いただきましたので、そちらも含めて検討をしていきたいと思えます。只今のところ、スポーツクラブ等からの指導者になってもいいという声については、直接は聞いてないという状況でございます。以上です。

(稲垣委員)

この資料1のボランティアっていうのはどういう方を言っているのですか。今も関わっていただいている方なんでしょうか。

(事務局)

はい、今も部活動のほうをお手伝いしていただいております。その方には、先ほどおっしゃっていただいた、元ウルフドックスでプレーされていた方がバレーボールをお手伝いしていただいております。

(稲垣委員)

何回もごめんなさい。夏休みとかも、うちには中学生の子もいるんですけども、夏休みお盆以外はほぼ毎日、この暑い最中でも毎日部活があつてですね、体力的にも行き帰りでも暑いし、真っ黒焦げになっちゃって大丈夫かしらと思うことが結構あつたんですけども。夏休みっていうのも、先生方も大変だと思うんですけども、大会前とかは仕方なくても、そういう時でなければ室内でのトレーニングやストレッチに代えていただくとか、そういうこともできれば、先生方も負担が減るんじゃないかなと思うんですけども。部活動と、何か活動するっていう意味がちょっとずれちゃって申し訳ないんですけども、ちょっと夏休みの活動は、ちょっとだんだん毎年暑くなっているんで、そういう面でもちょっと心配だなあとということが思ったので、無理に毎日部活しなくてもいいというふうに思ったこともありました。

あとは、地域移行で土日にやっていく。でも結局、平日に今のこの状態だと先生の負担っていうのは減らないっていう印象があつて。最終的に、平日の部活を切り離したいなっていうふうに思ったときのことを想定してやるのかどうかはまだここで決定する段階じゃないのかもしれないんですけども、働き方改革っていうのを優先に置くんであれば、もう平日も切り離す方向でやっていけるような、何か中途半端な状態になってしまうと、犠牲なるのが子どもたちなので、保護者の意見には子どもたちの貴重な3年間が無駄にならないようにしてほしいという意見もあつたので、子どもたちが振り回されるような状況にはならないようにしていただきたいっていうのは、保護者として一番思いますので、よろしくをお願いします。

(委員長)

ご意見ありがとうございました。その他ございますか。

(安井委員)

今の稲垣さんの話も含めてですけども、本当におっしゃる通りだなっていうふうに思つて。夏休みは暑いですもんね。だから中学校としては、それが良い形かどうかは別にして、例えば今、夏休み中の自転車での登下校、部活動のときに自転車での登下校してもいいよと。あとは、適宜休憩を取るとか、対応はいろいろしてるんですけども、暑いですよ。

夏の大会が終わった後の、その部活のあり方っていうところで、実は年々夏の大会が早くなっているのと同時に、新人戦も早くなってるんですよ。そうすると、その新人戦に向けて、新チームを作っていくかきやいけないっていう作業があつて。特に、それも例えば球技でっていうことになると、そこから例えばポジション作って、そこでボールの向きによってその実践的な動きからこうやってやるっていうのを教えなきゃいけないと。当然そこにはフィジカルの練習も入れるは入れるんですけども。そうすると、どうしても時間がないっていうところで、もう先生たちはてんやわんやしています。

自分が現場に行つて子どもたちを見てみると、子どもたちは部活をやりたいと思つていることがよく分かるんですね。子どもたちはすごくスイッチが入っているんで、そのスイッチに対して先生たちが対応したい。子どもたちによし行くぞって言って、要は無駄な

3年間にならないように、有意義な3年間になるように、基本的に先生たちと子どもたちが、このガイドラインが厳しくなって、今でさえ二人三脚で頑張っているっていう現状があるので、その部分と熱中症対策とか、黒く日焼けしちゃうとかってそこはこれからまた課題としてやっていかなきゃいけないかなっていうのは、よくわかりました。

自分なりに、もしも今稲垣さんがおっしゃられた、やるならやる、やらないならやらない。そうすることで子どもたちを振り回さないようにってそれ僕らも思っていて、そこでちょっと考えてみたんです。

実は、今年度、本校にあったハンドボールが夏の大会で、苦渋の決断だったんですが、廃部にしました。これをやるのに何年かかったかっていうことも含めて、今回、全面的に部活を廃部にする、4中学校、仮にですよ。廃部にするって言ったときに、何年かかるかっていうのをちょっとお示ししたいと思います。

仮に、今年度これは1つの例ですからね、市は関係ないですよ。僕が考えたことなんですけど。

例えば、今年度、子どもたちと保護者の方に廃部の方向でいきますっていう旗を振ったとします。そうすると、今年度入学してきた1年生は、そんな話聞いてないようになるので、今の1年生が3年生を迎えるときには、新1年生で部員がいるっていう環境を作らなきゃいけません。そうすると、それが訪れるのが令和9年度です。令和9年度に今の1年生は3年になって、令和9年度の新1年生は部活を継続するという形をしないと。今の1年生がかわいそうなこと、聞いてないって話になっちゃうので、多大なるハレーションが起こるので、令和9年度までは3学年ありますよっていう形をとる。同時に、令和8年度に入学してきた子については、もう君たちが3年になったときには1年生はもういないからね、と。次の令和9年度に入学する子たちについては、お前たちが3年生になったときには、1、2年生もいないからね。そうやってやっていくと、早くて令和12年度。今、旗振って、令和12年度に完全廃部っていうことが、多分一番滑らかな廃部する流れになると思います。

なので、超ロングスパンになるっていうか、いきなり一気にばさっと切るっていうことは子供たちのことを考えるとできないので、そういった見立てになります。

自分が思っていることなんですけれども、先ほど瀬尾課長さんの方から、うちの部活なんですけれども、実はボランティアで来てくださってる方が複数えて、そのボランティアさんの方がもう今地域でクラブを作ろうとされてるっていう情報が耳に入っています。だから、うちの学校でボランティアの経験を生かしてクラブを立ち上げて、こっちの方でチームを作って活動させていこうという動きが、自発的にこういうふうには出てくるんですね。

それをひとつの例としてとらえるのであれば、一刻も早く人材バンクを市の方で立ち上げていただくとか、コーディネータを作っていただいて、学校からも別にボランティアさん誰かいますかってやってみてもいいかなと思うんですけれども、そこでヒットしたところから、その部に携わっていただく中で、滑らかな形で地域展開していくっていう形ができるといいのかな。っていうのは、先ほど稲垣さんがおっしゃられた、100円、200円の破格の金額で、小学校ではそういうのがあるっていうことになる、じゃあ中等部チームをつくらうかとかっていう話が、ひょっとしたら地域の方の中に出てくるかもしれないので、そういったところに期待しつつ、今やることはやっぱり人材がいて、誰がどこにいるのか。例えば、今うちの学校でテニスで来てくださってる方っていうのは、本当にご自身から電話かけていただいて、ソフトテニスのすごく高い位置でやっていただいた方っていうことがわかって、そういったスキルを学区である学区の子たちに伝えたいんだっていうのが目的で、声をかけてくださった。そういったところに行くためにはやっぱり人。人がまずいるかどうかっていうところを模索していくことが一番大事だし、ゆくゆく子どもたちが困らなくてすむのかなっていうのは、思っています。

(委員長)

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。はい、お願いします。

(星野委員)

春日中学校の星野と申します。

地域展開で質問とリクエストがあります。

質問は、ここに合唱クラブの例があると思うんですけども、例えば、このように開催するってなったときに、平日か土日に開催するかにもよると思うんですけども、今の部活と地域展開が並行して行われる場合、部活動に入っていない方が対象になるといいますか、例えば土曜日に、このクラブがあるよってなった場合、部活がある子は土曜日に部活があることが多いと思うので、やっぱり部活入ってない子が入りやすいクラブになるのかってということが質問です。

あと、今うちの子がちょうど、先ほどお話に出た合唱隊に参加させていただいているんですけども、それは期間限定ということもあって、会場が遠い場合は、市の方でバスを出していただいて、バスで通わせていただけてるんですけども、このクラブっていうのができた場合、なかなかバスとかは難しいのかなと思うので、開催場所がある程度自分の学区から離れた場所になることが想定されると、やはり保護者の送迎が必要となってくるのが考えられるので、そうなるとなかなか子どもだけで通うということが、難しくなったりするのかなと思うので、その辺りも通いやすい方法があると、参加できる方が増えるのではないかなと思いました。

あと、地域展開とは別の話になるんですが、先ほど安井校長先生から、夏休みの部活動で自転車で通うことを、許可されてるというようなお話があったと思うんですが、私も隣の市の子たちが夏休みに自転車で通われてるお話を聞いて、うちの方も運動部でちょっと夏休み遠い子だけで疲れちゃうんで、1学期、夏休みの前に自転車で登校させてもらえないですかと学校へ相談したんですけども、ちょっとうちの学校では事故の発生が危険なので、今年に関しては自転車難しいですというお話だったんですけども。

なので、そのエリアごとによって環境とか条件も違うとは思うんですけども、この学校は自転車で通えてこっちは駄目だよっていうのも、ちょっと何か不公平に感じちゃうところがあるので、その辺りも統一していただけると、保護者としてはありがたいなと思いました。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。春日中学校のことかと思えますけれども、自分の方でも暑さ対策と交通事故に関しまして、どちらもバランスをとりながら考えていきたいと思いますが、またそれは学校でお話したいと思います。

その他はよろしいでしょうか。

(大鹿委員)

西枇杷島中学校の大鹿です。本日はありがとうございました。

外部指導員との連携の地域連携が、現在ある部活動が、そういった方々を人材バンク等を活用して学校に配置したらすごいいいなと思いますが、ちょっと地域展開と並列してというか、二本立てというか、っていうのも、他の市町の話、働いている先生方に伺いますと、例えば西枇杷島中学校にはバレーボール部があって、僕、男子バレーボールの顧問なんですが、新川中学校ではないです。新川中学校の子が、例えばバレーボールをやりたいなっていったときに、土日は地域クラブとして、例えば西枇杷島中学校の男子バレーボールの練習に参加をして、大会参加できるっていうふうに、お話を伺った事もあります。

自分の中学校に部活動が存在しているものは、こういった地域連携で外部指導者を入れながらやっていくことはもちろんいいかなとは思いますが、例えば前の中学校でも、この部活がある、この部活がない。だけど、自分はこの中学校ではない部活動が本当はやりたかったんだっていう子も中にはいるとは思うので、そういった子も救えるというか、いろいろな競技に触れていくことも大事なかなと思うので。

そうすると、地域展開では、例えば隣の中学校にはあるけれども、この中学校がないというようなそういった競技、あるいは文化的なものを作ってやられるのはどうなのかなっていうことをご検討いただければなと思いますので、すいません、よろしくお願ひいたし

ます。

(委員長)

検討ということよろしいでしょうか。

それでは、その他にございますか。よろしいでしょうか。

それでは委員の皆様方からいただきました様々なご意見につきまして、事務局の方でも整理していただいて、次回の会議で令和8年度の試行内容を示していただくようお願いいたします。

はい、事務局どうぞ。

(事務局)

今、令和8年度にやること試行することを、皆さんで話し合ってくださいました。

8年度の進め方につきましては、この2案でやっていくということよろしいでしょうか。試行としてまずはこれはやりたいなというふうには思っておるんですけど、そこはよろしいでしょうかね。まずは、指導員を補助的に土日当たると、これが1つの試行案と、もう1つは地域展開として、1つ何か地域クラブを作って活動していく。

おそらく合唱部みたいなものができ上がるかなというふうには考えてるんですけど、そこら辺に対して何か異存がある方はみえますでしょうか。

(委員長)

まず土日のみということですね。外部の指導員の方がボランティアではなく、報酬等をもって指導に当たるということですね。

(梶浦委員)

体育協会の梶浦です。

今の件に関してご質問なんですけれども、地域展開というものについてなんですけど、今これはもう合唱クラブということにもう決め打ち的なことで問題がないという事ですかね、8年度は。

(事務局)

はい、そのように計画しております。

(梶浦委員)

それであればいいかなと思うんですけども、もう考えてますというふうになると、具体的に取るというふうなちょっと問題があって、だから、個人競技個人のものとは、ひとつ慎重に考えていかないと。地域でやるにしても、地域でもやってなおかつ学校でもやるとなった場合に、特に団体の場合は、成長の度合いが違うだとか、教え方の違いということで、学校に戻ったときに、生徒が戸惑ってしまうものですから。合唱であれば問題ないかなというふうに思いますけど。

子どもたちが戸惑いがないように、慎重に、種目とか選びながら、うまくやっていかないと。よろしく願いいたします。

(委員長)

ありがとうございます。先ほど事務局が申し上げておりましたけれども、そういった案で来年度って言ってもよろしいかどうかですが。はい、どうぞ。

(事務局)

すいません。教育部長の石黒でございます。

今課長が言いました、この案で進めたいっていうのはですね、どうしても予算、指導者報酬だとか、予算が伴うもんですから、ここの検討会議である程度ご賛同をいただかないとですね、僕たち勝手に予算を上げてしまうということになってしまいますので、それで勝手に進んでいって、皆さん集まっていた意味がなくなってしまいますので、この案で試行ということで、8年度は、外部指導員も少し入れて、合唱のコーラスグループを何とか地域展開の1つのクラブにできないかということで進めさせていただくということで、ご了解いただければ、それで予算を計上して次回の2月の会議の時には大体予算決まっちゃってるもんですから。これで予算を計上して予算が認められて、次の委員会で、これでいくことになりましたということをご報告さしてもらってから

最終3月の市議会で予算を認めていただいて4月からスタートという形になりますので、今日、皆さんにちょっとまだ早いんじゃないのっていうことであればですね、ここは一旦ストップする話なんですけれども、これぐらいのことであれば、進めていってもいいんじゃないかと思っただけなんですければ、この案で試行をしていきたいなと思っております。

(黒田委員)

来年度、地域クラブは合唱を試してみたいと。中学校の場合は、予算もあることだと思いますが、希望は中学校さんの方から出すんでしょうか。例えばこのぐらい来て欲しいとか、希望とか。さっき言った予算があるんですから、うちも来て、うちも来て、と例えばなった場合、当然全部はできないですね。

だからそこら辺、うちの方からこの学校このぐらいはいいですよとか、どういうふうにするのか。それは来年度の課題かもわかりませんが、でもある程度予算があるから、希望を聞かないとかなんです。これ現状のままということでもないですね。そのところと、それから下世話ですけど、1時間当たり1,600円支給というこの金額は上がることはないですね。

(事務局)

はい。補助事業で決められている金額が1,600円なので、それに合わせてあります。

(黒田委員)

教員はどうでしょう。

(事務局)

教員はもっと高いと思います。

(黒田委員)

市が出すんですね。

(事務局)

県からの補助があります。1,600円であれば基準額。県が3分の2補助です。

(梶浦委員)

もう1件いいですか。すみません追加で。

体育協会卓球クラブという形で質問したいんですが、今西枇杷島のほうで卓球クラブというものをやっているんですけれども、35年くらい経っているクラブなんですけれども、今、子どもたちの方が入ってきてまして、中学生が入っています。西枇、清洲、新川、春日も入ってるかな。それぞれのクラブから数名ずつなんですけど、入っていてやっってるんですけれども、これは自分たちのクラブとしてやっってるんですけれども、これを地域クラブとして、もしこれから考えるとすると、別のクラブにしなきゃいけないってことなんですかね。今のクラブではなくて、別に立ち上げないといけない、というような形になっていますか。ちょっと質問です。

(事務局)

そこはこれからの検討課題になってくると思います。

(梶浦委員)

はい、分かりました。

(委員長)

それではよろしいでしょうか。はい、お願いします。

(天竺教育長)

長時間ありがとうございます。本当に議論が付きにくい話題でして、私どもも、部中で検討していてもですね、本当に時間がどんどん経つくらい。非常にこれは時間を要する会で今いろんな意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

いろいろいただく中で、例えば吉住委員さんからいただいたご意見の中で、私の方で冒頭でご挨拶したときに働き方改革という点と、学校間格差というフレーズが残ってしまったと思います。学校間格差というのは確かにあるんですけれども、次の意義は、いわゆる子どもたちにとっての文化スポーツに親しむ機会の確保ということがメインでして、学校

間格差の解消というよりは、市内の子どもたちにとっての、文化・スポーツ活動の機会の確保をしていきたいということが、その奥でございまして、学校間格差の解消が大きな目的ということではなくて、機会の確保を提供していきたいということと、それから、働き方改革と申しますと、ちょっと先生の負担軽減的な意味合いがつくんですが、当然それも大事なんですけども、だから先生たちの本分っていうのは、教育課程をきちっとしたようにすることで、授業で全力を注ぐこととございまして、そのための環境整備に、できる限り移行していかなければならないということが、ある意味働き方改革のある形でございまして。

はぐくみ宣言をしておりますので、子どもたちを育てていく。子育てをしていくっていう、その大きなテーマ、目標は私も十分承知しておりますので、一番大事だと思っております。ただ、もう1個上の段階の目標かなっていう気もしまして、子どもたちをどうやって育てていくのか、これもあるし、これもあるし、これもあるしっていう中の1つとして、今後地域展開をどう考えていくか。こういうとらえ方も少ししていく必要があるかなというふうに思っています。

もちろんおっしゃられたように、部活動の教育的意義は計り知れないものがあると思いますんで、長年やってきました。ぜひそれを、地域移行か地域展開かまだわかりませんが、その教育的意義があったのがなくていいのかと言われてたら、それはないと思っております。そこは大事にしていきたいと思っております。

それから稲垣委員のおっしゃったように、子どもたちにとっての3年間は本当に大事な者です。おっしゃる通りです。私もずっと中学校教員をやっておりましたので、やはり大事な中学校期3年間は大事したいと思っておりますので、本当におっしゃる通り、その3年間で決して中途半端だったとか、そういうことにならないようには当然考えていきたいと思っております。

この話題は、もう本当に時間長くかかるとも思いますので、すぐ激変するとか、すぐこうなりますよということではございませんので、長い時間をかけて、これは清須市としてどういった形がいいのか。それは当然慎重に考えていきたいと思っております。

それから星野委員がおっしゃいました、おっしゃる通り、クラブ化に伴ってですね、いろんな問題が出ます。場所のところになるのかとか、運搬をどうするのかとか、会費はどうなるのかとか、先ほどにもあった指導者はどのようになるのかとか。一端舵を切ろうとするといろんな課題が出てきますんで、これをさっき言ったように時間がかかる問題ですが、できるところから、これならばっていうところが、保護者の方、生徒の皆さん、先生方もこれならばっていうところから順次できるところからということで、一足飛びになにかっていうことは、これは難しいと思いますので、そういう展開で、少し長い期間の検討委員会となりますが、いろいろなご意見をいただいてやっていきたいと思っております。

最終地域展開というのは、何年先にゴールという言葉は悪いかもしれませんが、かなり長い期間がかかりますので、そこに一足飛びにゴールというよりは、まずは今の中学校にあるべき部活動とかをどうしていくかというのがやっぱり議論しながら、最終的にそれを進めながら、結果として地域展開として清須市はこういう形になりましたねっていう形が、何年後かに現れるように我々も検討を深めてまいりますし、皆様方からの貴重なご意見をこれからどんどん賜りたいと思っておりますので、今後とも、どうぞよろしくおねがいをいたします。最後になりましたらちょっと一言お話をさせていただきました。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは先ほど事務局からありましたけれども、試行について進めて行くということでよろしいでしょうか。

〈異議なしの声あり〉

(委員長)

はい、ありがとうございます。ご異議もないようですので、それではこれで次年度の活動地域連携会議等の試行についての議題を終わります。

(2) その他

(委員長)

それでは、議題「2」の「その他」に入りますが、何かご意見、ご質問はございますか。

(事務局)

学校教育課長の瀬尾です。

本日、お手元に配布しました資料の最後に、A4用紙1枚になりますが、前回の会議における「主なQ&A」を一覧で掲載させていただいております。また、お目通しいただきましたら幸いです。以上です。

(委員長)

その他、よろしいでしょうか。特にないようですので、これで本日の協議事項は終了といたします。

議事進行に際し、委員の皆様のご協力に感謝申し上げ、事務局へお返しいたします。

4 閉会

(事務局)

三嶋委員長、ありがとうございました。

次回、第3回清須市立中学校部活動検討委員会は、年明けの後、1月下旬から2月上旬の開催を予定しております。開催案内は、また改めてご通知申し上げます。1ヶ月前までには、お手元に届くよう送付いたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、「第2回清須市立中学校部活動検討委員会」を閉会いたします。

お気をつけて、お帰りください。ありがとうございました。

問 い 合 わ せ 先

学校教育課

電話 052-400-2911